

探訪 チャレンジ企業 33

明日に向かって走り続ける!!
株式会社宮本製作所：志雄町



一 協力こそ共栄の道

「ユーザーのニーズに的確に
応えるプレス加工のエキスパート」

（株）宮本製作所は、昭和四十三年に羽咋郡志雄町で、自社用金型の設計製作も行うプレス加工の専門業者として誕生した。同社の主要取引先は、松下電器産業（株）、富山松下電器（株）、小矢部松下電器（株）などの松下グループと鳥屋町に本社があり、松下グループの協力工場（共栄会社）でもある肥田電器（株）である。従って配電盤・コンデンサー・液晶等の部品は直接間接に、そのほとんどが松下グループに納入されていることになる。日本を代表する大企業を取引先とするだけに、同社の技術レベルは非常に高く、特にプレスの「順送加工」（ロール材を少しずつ繰り出しプレスで数回打って工程を進め最後に切り離して製品として完成させる加工技術）は定評がある。

二 創業の経緯

同社社長宮本章氏は、かつて金沢市にある大手繊維機械

メーカーに勤務し、設計業務に従事していたが、「自分の適性は小企業にある」との信念を持って従業員五人程の小さな会社に転職した。前と同じく設計を担当してはいたが、同時に「小企業ならではの業務の幅の広さ」も体験した。しかし「商売の面白さ」にも目覚め、これからの事業として考えていたプレス技術修得のために、無給の約束で、別の小会社に移り、いろいろと苦勞を重ねた末、昭和四十三年十月によく念願の独立を果たしたのである。



社長の宮本章氏

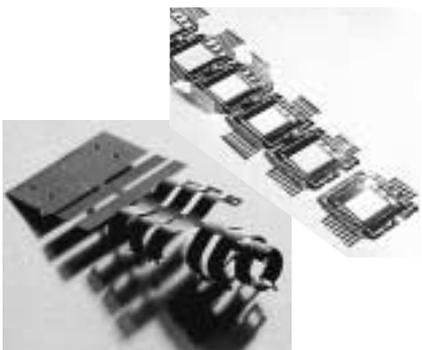
三 高度な加工技術

同社は、部品加工を専業とする以上、その生命線は生産技術にある。しかし社長はもとも設計出身であり、設計技術者はユニークな発想を得意とする。プレスを寝かせて打ったり、見よう見まねで作った金型の型ズレを防ぐために画用紙をはさみ込んでみたりと、次々に面白いアイ

デアを考え出し、試行錯誤を繰り返しながら「順送技術」を自家薬籠中のものとしていった。また加工の要である金型は全て自社製であり、その型を迅速に交換するQDC（クイックダイチェンジ）システムと合わせて「技術水準の高さが評価され、昭和五十八年には「小規模企業モデル工場」にも指定された。

四 新しい課題にチャレンジ

同社の発展の理由は次の二点に集約される。その一つは金型制作や、設計段階から開発に参加して製造側の意見を製品に反映させるデザインを通じて、得意先の良き相談相手であろうと努め、それを実行してきたこと。もう一つは、品質・価格・納期の三条件は、一旦約束したら、どのような障害があろうとも守り抜いてきたことである。その甲



斐もあって創業以来三年前までは、売上が減少したことは一度もなかった。しかし三年前からは、中国をはじめとするアジア諸国の追上げもあってか明らかに様子が変わってきている。この危機を乗り越えるために同社は従来までは「不要だ」としてきた営業部門を新設して受注の開拓拡大に取り組みはじめた。また会社のイメージアップのためにISOの環境認証も取得した。更に電気自動車や衝突時に瞬時に締まるシートベルトの開発に参加するなど自動車業界への進出にも取り組みはじめている。

日本経済の底力を示し、地域経済の活力を維持するためにも同社の高い技術力を背景とした新たな挑戦が成功することを期待したい。

（お問い合わせ）

株式会社宮本製作所

〒九二九一四一四

石川県羽咋郡志雄町

字敷波リ二〇一

TEL〇七六七二九一四二二

FAX〇七六七二九一三八八三

http://www.ishikawashokai.or.jp

/sho/kygyo/miyamoto/index.html

e-mail miya.ss@crux.ocn.ne.jp

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。